

交わりが生まれる学び舎

-ESD のデザイン実施-



高橋研究室 熊谷麗衣

01. 背景・目的

●ESD(持続可能な開発のための教育)とは

2002 年にヨハネスブルグで行われた「持続可能な開発に関する世界首脳会議」において日本が提唱した考え方であり、持続可能な社会の作り手を育む教育である。

現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動などの変容をもたらし持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。多様な視点（環境・経済・文化）から課題を総合的に学び、主体的な行動力

や共生社会を築く力を養うことを目指し、SDGs(持続可能な開発目標) 達成にも必要不可欠なアプローチである。

●空間から実践する ESD 教育

ESD は日本で提唱された考えであるのにも関わらず、特に空間的なESDの実践が不足している。そこで本研究ではESD教育を強化し、より子どもたちが地域の人々たちのためになるように、ソフト面（カリキュラム等）はもちろんハード面（空間設計）を含めたESD教育を取り入れた「ESD教育を基盤とした小学校」をテーマとし、設計を行う。



02. 対象敷地

対象とする敷地は静岡県静岡市立清水入江小学校とし、建て替えを提案する。清水入江小学校は閑静な住宅街に位置している。静岡市内の他小学校と比べて比較的に通学範囲が広く、工場や畑が点在する地域を通して児童が日々登下校を行っている。そのため地域にはさまざまな仕事や暮らしが存在し、児童は日常的に地域の人と関わりながら学ぶことができる。学校と地域が相互に関わり合い、ESD の理念を日常の空間として体现できる敷地である。



03. 設計コンセプト

文部科学省が掲げる ESD(持続可能な開発のための教育) で目指すことは①「持続可能な社会づくりの構成概念」②「学習指導で重視する7つの能力・態度」の2つがある。

本研究では①「持続可能な社会づくりの構成概念」の6つのキーワードに着目し、これらを空間設計の視点として解釈。【図1】各キーワードを単なる教育内容として扱うのではなく、児童の日常的な行動や関わりの中で自然に体感・実践されるものとして捉え建築的仕組みとして空間に落とし込む。【図2】

学びと環境が相互に影響し合いながら、児童の主體的な学び他者・地域との関係性を育む ESD 空間を実践するための小学校を設計する。

【キーワード① 多様性】

「違い」が共存している。
自分らしく居られる場所。

【キーワード② 相互性】

人と人が自然と繋がる。
空間と空間が繋がる。

【キーワード③ 有限性】

限りがある。
将来を考える。

【キーワード① 多様性】

屋外空間・外構計画
▼
地域の人々が通行可能な
敷地内に道路を取り入れる。

【キーワード② 相互性】

学習スペース・畑
▼
地域の人々が先生となり
生徒に授業を行ったり
先生・友達と勉強したりする。

【キーワード③ 有限性】

地元の資源を使用した校舎
▼
校舎が環境教育の教材となる。
植物に常に触れ、育てる。

【キーワード④ 公平性】

平等に学校教育を
受けることができる。

【キーワード⑤ 連携性】

人と人・場所と場所が
分断されずに繋がる。

【キーワード⑥ 責任制】

自分たちの行動に
責任がある。

【キーワード④ 公平性】

インクルーシブデザイン
▼
誰もが対等に、互いを尊重する。
学びの機会を与える。

【キーワード⑤ 連携性】

普通教室の配置
▼
教室をあえてバラバラに配置。
異学年が交わる空間。

【キーワード⑥ 責任制】

校舎
▼
授業等で作成した木パネルで
校舎を彩る。
自分たちのスペースを管理。

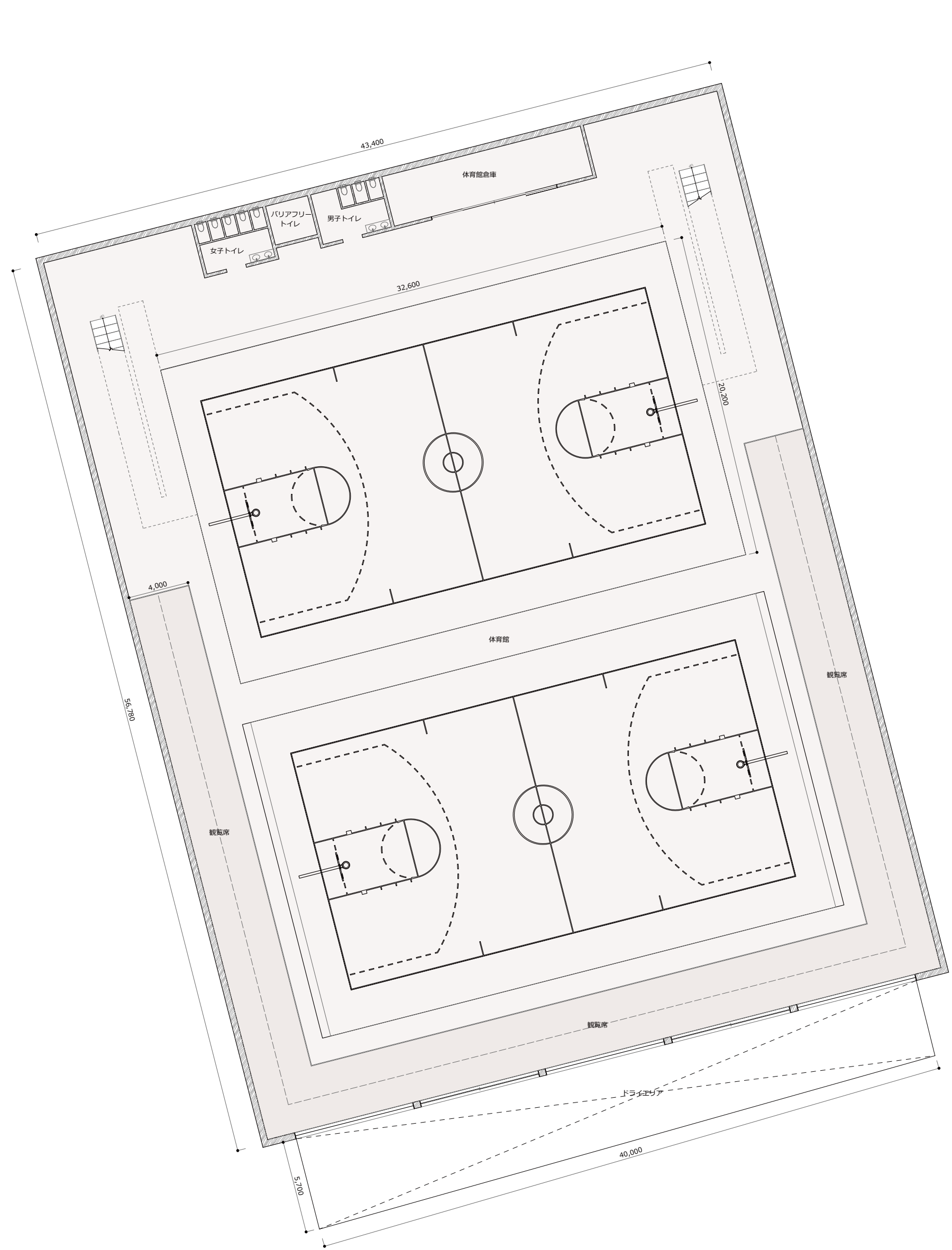
【図1 - 持続可能な社会づくりの構成概念の6つのキーワード】

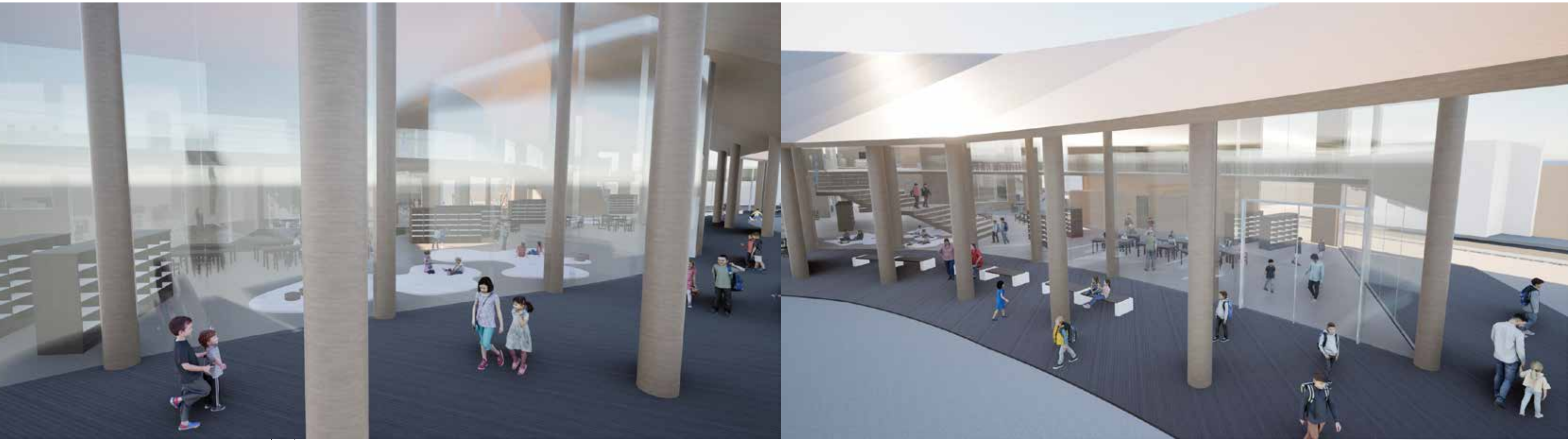
【図2 - 本研究での空間への展開例】

04. 配置図兼1階平面図 1/500



05. B1階平面図 1/250





キーワード①・②・⑤

【波型の校舎（地域道路）】

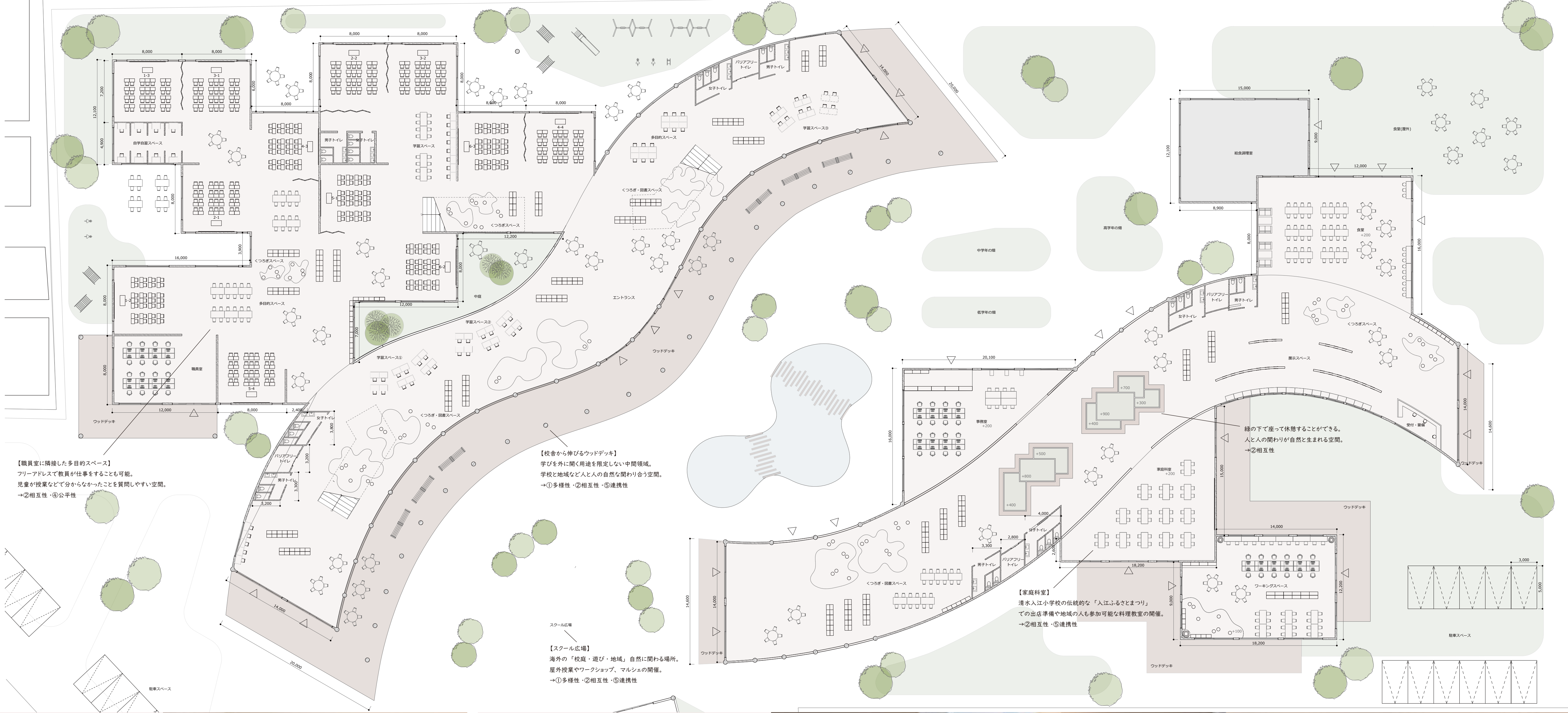
地域の人々も通行できる地域道路を校内に取り込み、波型形状によって人の流れをやわらかく誘導する。多様な立場の人々が行き交い、自然な出会いや相互的な関わりが生まれる空間。



キーワード②・⑤

【学習スペース】

先生や友達に授業内容を質問する場としてだけでなく地域の人々を先生として招き、文化や暮らしについて学ぶ機会を設ける。学年を超え学校内にとどまらない学びを実現し関わりを育む場となる。



キーワード①

【自学自習スペース】

宿題や予習復習などの自学自習を行う場であると同時に、「学ぶためだけの場所」に限定せず静かに過ごしたい児童の選択肢や児童の多様な学び方や過ごし方を尊重する空間。



キーワード①・②・⑤

【くつろぎ・図書スペース】

図書館を一室設けるのではなく校舎の各所に本棚を設置し児童がいつでもどこでも本に触れることができる環境をつくる。また本を読むスペースだけではなく好きな体制でリラックスすることができる空間。





キーワード②・⑤

【給食調理室・食堂】

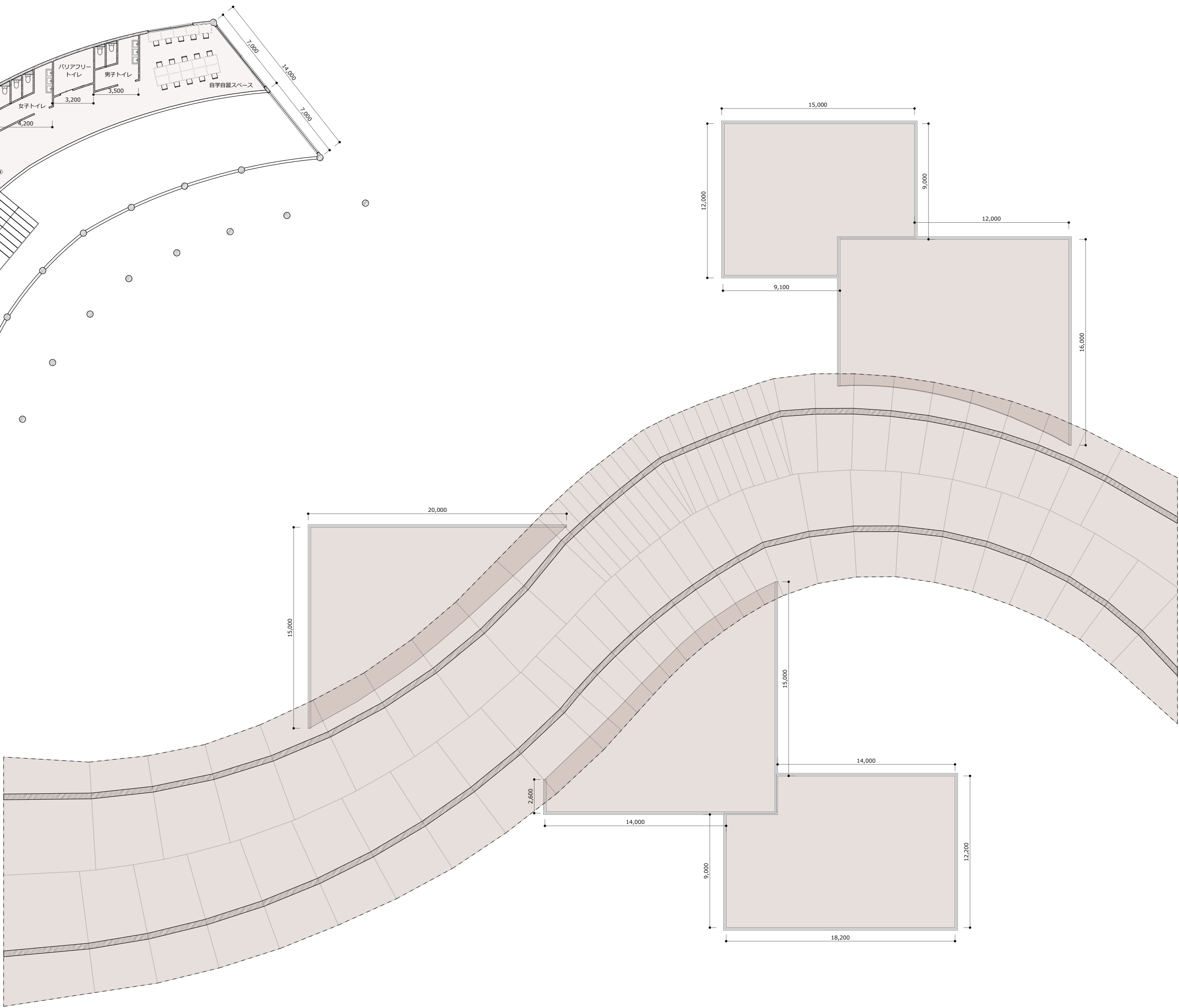
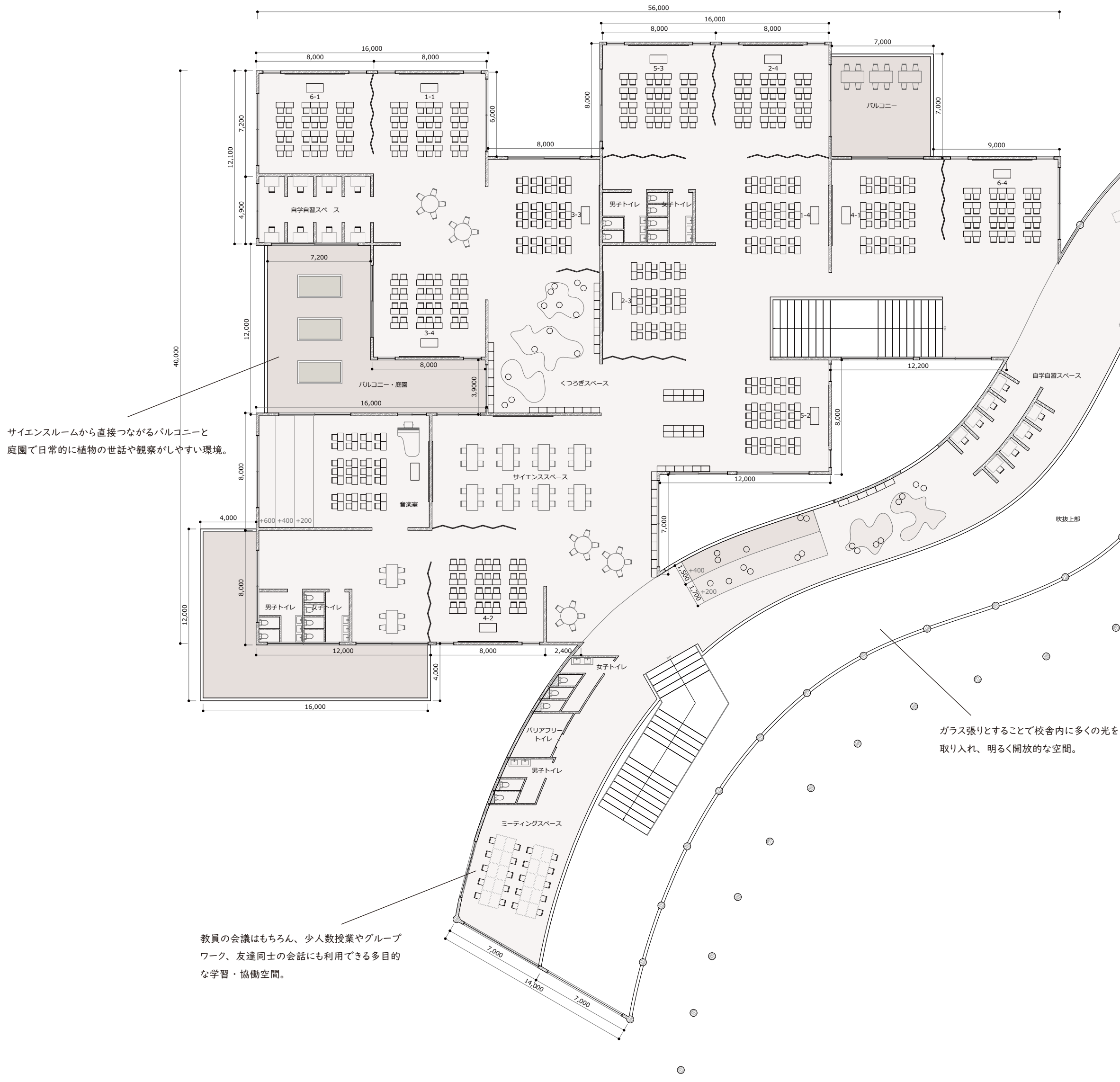
給食がおいしいことで知られる学校の食文化を継承し身近な環境で育った食材を用いた給食を提供する。地域の人も利用可能で、屋外でも食事ができる場とする。食を通じた相互的な地域連携を育む。



キーワード①・②・⑤・⑥

【普通教室】

学年ごとに区切られる一般的な学校構成に対し、学年を横断して教室を配置することで他学年との自然な触れ合いを日常化し、社会を先取りするような学びの環境をつくりだす。



キーワード⑥

【学習校舎】

地域の木材や資材を用いた木パネルづくりを取り入れ児童が教室や校舎を彩る。自分の学習スペースを管理・維持する経験を通して、場に対する責任意識を育む。



キーワード②・③・⑤・⑥

【花壇・畑】

花壇や畑を学習空間として計画し、植物の育成と管理を児童が担うことで自然の有限性と責任意識を育む。さらに地域農家と連携し育て方を学ぶことで、人と自然、人と人の相互的な関係を築く。



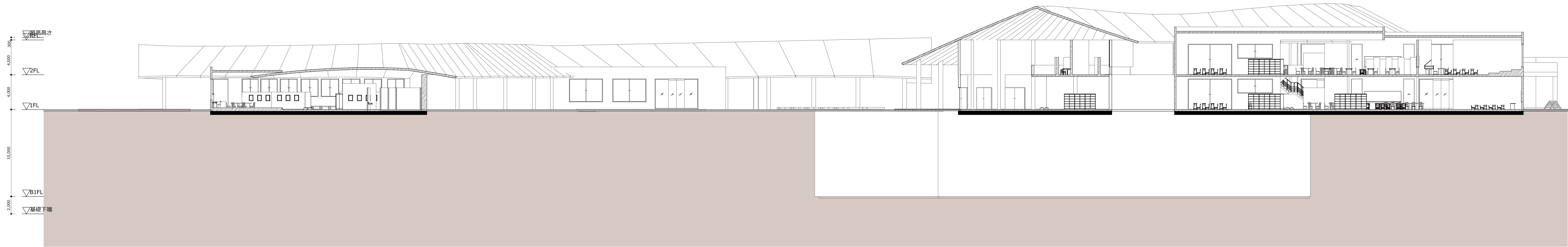
キーワード④

【インクルーシブデザインの取り入れ】

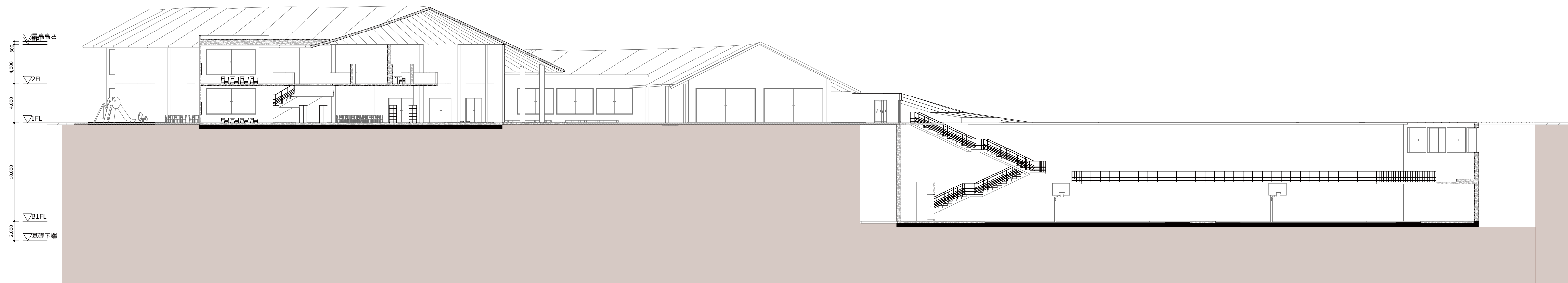
段差の解消や動線計画など、インクルーシブデザインを取り入れた校舎とする。身体的条件や特性の違いに関わらず、すべての児童が同じ環境で学び、活動できる公平な学習空間を実現する。



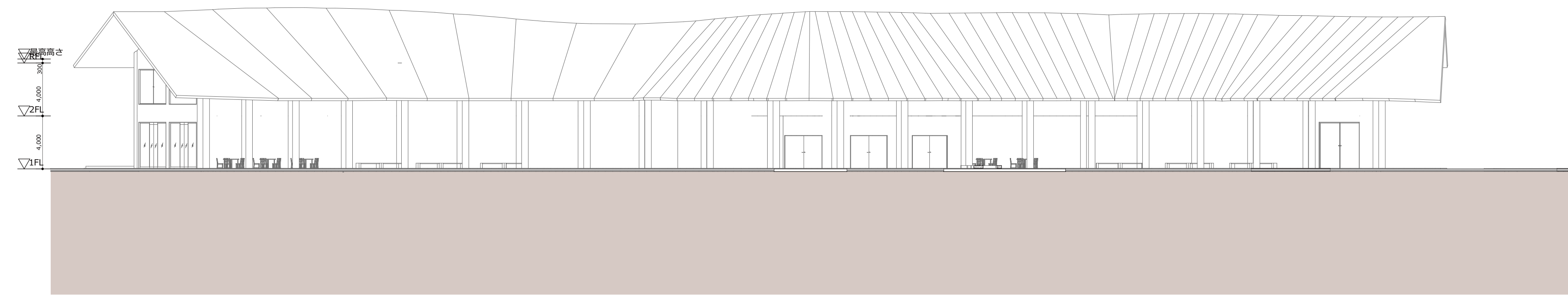
08. S-01 断面図 1/250



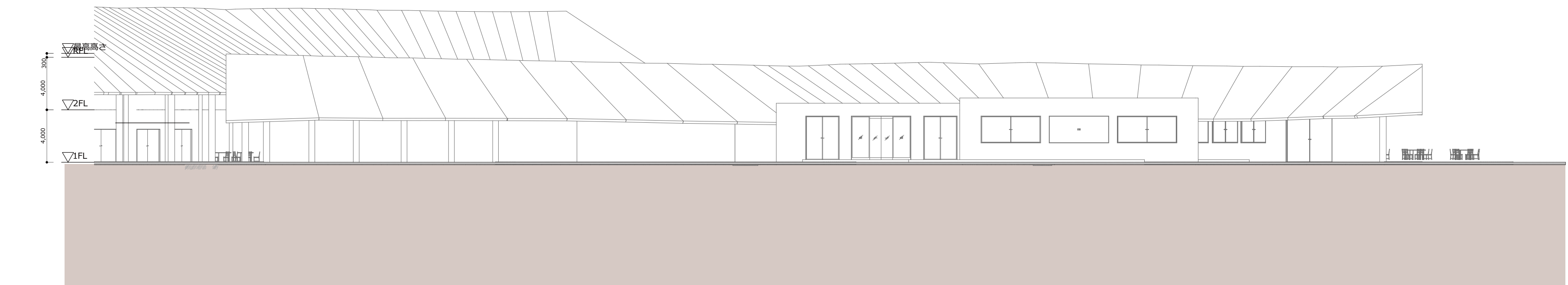
09. S-02 断面図 1/250



10. E-01 立面図 1/250



11. E-02 立面図 1/250



持続可能な開発のための教育 (ESD) で目指す、持続可能な社会づくりの構成概念の 6 つのキーワード「①多様性②相互性③有限性④公平性⑤連携性⑥責任制」を空間化した小学校である。学年や立場を超えて人と人が関わる・交わる構成とし、学び・食・遊び・環境を共有する場を学校の敷地全体にちりばめた。地域の人々や、限りある資源と日常的につながること社会の関係性を実感的に学ぶ。児童ひとりひとりがそれぞれの役割をもち、支え合いながら持続可能な社会を育む学びの拠点をを目指す。

地域資源を活かしたものづくり体験として、授業と地域参加型の2種類のワークショップを計画する。授業では学年ごとの発達段階に応じた内容で木材（地域の資源）を用いた制作を行い、木パネルを制作して校舎や教室を自らの手で彩る。地域参加型のワークショップでは、竹千筋細工などの静岡県の伝統工芸を体験し、地域の技術や文化に触れる機会を設ける。

スクール広場では地域や学校のお祭りを開催し、地域の人々と児童の交流を深める。これらの活動を通して学校と地域が協働しながら学びを育む場とする。

